

「二歩目」の先に

長い夏休みが終わり、学校に子どもたちの声が戻ってきました。

2学期の始業式で、小学部、中学部、高等部、それぞれの子どもたちに、私は一つの言葉を贈りました。

二歩目を大切にしよう！

一歩目は、まず、やってみること。

あいさつをする。自分で着替える。勉強に取り組む。友達に声を掛ける。仕事を最後までやってみる。

子どもたちの毎日には、そんな小さな「一歩目」がたくさんあります。

けれども、一歩踏み出したからといって、いつもうまくいくわけではありません。

思ったようにできなかったり、「難しいな…」と立ち止まったりすることもあります。

私は、そんなときこそ「二歩目」が大切なのだと話しました。

「できなかった」で終わらない。「じゃあ、次はどうしてみよう」と考えて、もう一度やってみる。少しやり方を変えてみる。誰かに聞いてみる。今日はここまでにして、また明日やってみる。

「もう一回」の形は、一人一人違ってよいのだと思います。

子どもたちの成長を考えると、私たちはつい、「できるようになったこと」に目を向けます。

もちろん、それは大きな喜びです。

でも、その陰には、きつと何度も繰り返した「もう一回」があります。

うまくいかなかった日。悔しかった日。それでも、ほんの少し前を向いて、もう一度やってみた日。

成長とは、いつも大きな一歩として現れるものではないのかもしれませんが。

昨日と同じように見える一日の中に、ほんの少し違う「二歩目」がある。

その小さな変化を、私たち大人が見つけてあげることも大切なのではないのでしょうか。

「できたね」だけでなく、「もう一回やってみたね」「自分で考えたね」「今日は、ここまでできたね」。

そんな言葉を掛けられる大人でありたいと思います。

子どもがうまくいかなかったとき、すぐに答えを教えるのではなく、「次はどうしてみようか」と一緒に考える。

あるいは、もう一度挑戦する姿を応援する。

そんな大人のまなざしが、子どもの「もう一回やってみよう」という力になるのかもしれませんが。

2学期は、運動会、校外学習、宿泊学習、修学旅行、現場実習など、新しい経験に出会う季節です。

うまくいくこともあれば、思うようにいかないこともあるでしょう。

小学部から高等部まで、経験することは違っても、一歩踏み出し、その先で自分なりの「二歩目」を踏み出していくことに変わりはありません。

一歩目は、やってみる。

二歩目は、もう一回。

その二歩目は、目には見えないほど小さな一歩かもしれません。

でも、その小さな一歩の積み重ねが、「できるようになったこと」や「自分でできること」を増やし、一人一人の未来へと続いていくのだと思います。

この2学期、子どもたちの一歩を大切にしながら、その先にある、かけがえのない「二歩目」にも、温かいまなざしを向けていきたいと思います。

子どもたちの「もう一回」を、学校と家庭で一緒に応援していきましょう。



「やってみよう」、「もう一度やってみよう」、「最後までやってみよう」

この言葉を大切に、魅力ある虹の原の教育を育んでいきます。

— R8年度 学校経営方針の実現に向けて —